

スタンプをためて
坂城商品券を1,000円分もらおう!
更にお得なサカキスタンプキャンペーン開催!!

さかきスタンプラリー

参加店
さかきのお店応援券
取扱店

◆応援券利用期間 令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月)

※町内飲食・小売店等の利用促進や地域における消費喚起を促すため実施しています。

町財政

令和2年度決算の特徴は

感染症対応策により増



中島 新一 議員

問 コロナ下での財政運営において決算の特徴は。

町長 感染症が招いた、厳しい状況を支えるための支援として「特別定額給付金給付事業」約15億円のほか、地方創生臨時交付金を活用し町独自の事業として、小規模事業者等持続化応援支援金やスタンプラリー事業、資

金貸付保証料及び利子補給等の商工関連費用に約8千万円、総務・企画関連費用に約5千万円、子育て世代への応援事業や小中学校等への感染予防対策費用等、教育関連費用に約4千万円と、実情に合わせた取り組みを実施してきた。

歳入決算額は90億489万2千円で、歳出決算額は89億3692万3千円と大幅な増額となったが、新型コロナウイルス対策関連補助金が国等から交付されたことにより、国庫支出金が大幅な増額となった。

歳入・歳出ともに感染症の流行が決算額に大きな影響を与えている。

事業所への支援について

問 今後の支援策は。
商工農林課長 10月1日からの実施に向け「スタンプラリー等消費回復応援事業」の準備を進めている。

農業振興

水田農業の経営安定化を

人・農地プランを活用



朝倉 国勝 議員

問 水田農業は米価の下落が続く、特に兼業農家は栽培経費が生産高を大幅に上回り、その結果、こ

最近離農者が増加し、専業農家への委託栽培や農地の利用集積が年々増加傾向にある。一方、沖縄や九州で収穫されたお米は昨年よりも価格が下落して流通している。このようなことから専業農家では、先行きの経営が不透明であるため困惑しており、大幅な経営効率化が必要である。そこで、6次産業化への支援や耕地面積の拡大と整理の推

進、集団転作と有利な転作物の指導、加えて、地域とJAと行政の連携強化等の対応が、今後の水田地帯の荒廃化防止や経営の安定化に向けて急務であると思うが町の考えは。

商工農林課長 米穀生産



脱穀が進む水田地帯

は機械化による土地利用型農業として、機械や設備面での初期投資が大きく、新たな就農にはハードルが高い。価格の下落が続く中では経営の安定に向けた支援が地域の水田農業を維持するためにも重要と考える。そのため6次化に向けた取り組みや、転作物の拡大指導、土地の集積集約化の展開、地域の理解を得られるように、人・農地プランを活用し、集団転作を含め、水田農業の将来を考えていく。